

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

.サービスの成果に関する項目

【記入方法】

複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに管理者が介護職員と協議の上記入してください。

次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。

項目番号23 初期に築く本人との信頼関係

項目番号24 初期に築く家族との信頼関係

項目番号25 初期対応の見極めと支援

項目番号26 馴染みながらのサービス利用

項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援

次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。

項目番号53 身だしなみやおしゃれの支援

項目番号59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援

項目番号60 お金の所持や使うことの支援

項目番号61 日常的な外出支援

項目番号62 普段行けない場所への外出支援

項目番号63 電話や手紙の支援

項目番号64 家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

管理者 = 指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。

職員 = 「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 エルピスホーム

(ユニット名) A(虹)

記入者(管理者)
氏名 吉川 君江

評価完了日 平成20年11月4日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>社会福祉法人篤心会としての基本理念である家庭・地域社会との連携を大切に暖かい家庭的環境を作ることを職員全員で確認しています。現在のホームの状態から地域との関係性、連携をどのように図っていくべきか話し合い、地域住民の一員として地域の人たちに理解を頂きながら健康的な暮らしができるように努めています。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎日朝礼の際、各ユニットにて職員全員で理念の実現のために唱和しています。理念を念頭においての統一したケアについて取り組みを図り、日々実践に活かしています。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族の方には家族通信や面会時に利用者が地域行事に参加する機会を設け、生き生きとした暮らしを継続する為の理解と協力を得ている。地域の方には運営推進会議・見学の際に理念について説明しています。その他、理念を見え易い玄関に掲示したり、パンフレットに載せたりと多くの方に理念が浸透するように努めています。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>夏祭り等の行事を開催する際は、近所の方に招待状を出し、参加の呼びかけを行い参加をして頂いております。散歩の際は近隣の方への挨拶を実施し、気軽に話ができるように日頃よりしています。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>須賀川広報や地元新聞で地域行事を調べては、祭典に参加したり、文化センターの催し物にも出かけています。買い物にはスーパーや商店街に、ファミリーレストランや食堂などには外食に出掛けることで地域の方と交流する機会を確保しホームの理解が得られるようになってきました。パンの移動販売などもあり気軽な交流も出ています。しかし、町内会に加入しているものの町内会長や役員との交流には至っていない。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>認知症グループホーム連絡協議会の研修委員を引き受け、会議の場所を提供し、県内のグループホームの質向上だけでなく、地域の高齢者等の暮らしに役立つ術はないか話し合っています。民生委員や他事業所の職員の見学を受け入れ、認知症ケアの啓発に努めています。</p>	<p>認知症サポーターの養成等に少しでも事業所として役立つことは無いか、具体的活動に結び付けていきたいと思います。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価及び外部評価を実施する意義を理解した上で、サービスの点検のために全職員で自己評価票記入に取り組みました。評価結果に基づいて職員で話し合い改善計画シートを作成し質向上のために取り組んでいます。自己評価の内容を組織内人事考課制度に取り入れ日々のケアの中で職員が意識できるようにしています。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等についての報告や情報交換を行なっています。入居者の方が参加する事により、意見を自ら述べホームでの生活の様子を知って頂き、参加委員の方に取り組みに関して激励されることで自信欲を持ってサービスの向上に向けて取り組んでいます。会議の参加者として入居者に参加はして頂きましたが、町内会、老人会、婦人会等参加には至っていない。</p>	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者が定期的な市の会議に参加し、情報の収集や知識の習得に努め、また相談をし積極的に交流を図っている。</p>	<p>事業所の問題解決を図っていく為に、積極的に働きかけ関係作りに努めていきたいと思います。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域権利擁護事業や成年後見制度について外部研修や内部研修にて学ぶ機会があります。その他、文献を用意しいつでも見れる状態になっています。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修やミーティングにて、高齢者虐待防止法を全職員が理解し、浸透、遵守がされるように話し合い実行しています。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に関しては、電話相談・ホーム内見学・実態調査・重要事項説明書説明の際に、不安や疑問等を尋ね十分な話し合いをした上で納得して頂いてから契約を結んでいます。利用者の状態変化による止む終えない契約解除に至る際も、家族と相談し納得した上で行なっている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の言葉や態度や表情からその思いを汲み取り、解決する努力をしている。管理者や職員が意見や不満・苦情を聞く機会を作っている。利用者と信頼関係ができた職員には意見を言いやすい関係ができています。</p>	<p>入居者の方に運営推進会議に参加して頂いた際、途中で事業者職員が席をはずす等配慮し、第三者に意見を聞いて頂く機会を作る等工夫していきたいと思えます。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の暮らしぶりについては、2ヶ月に1回の家族通信の発行やホーム内写真掲示、面会の際や電話連絡により報告しています。預かり金に関しては、出納帳や領収書を利用料請求書と共に一緒に送付したり、電話連絡により報告しています。健康状態に関しては、病院受診や状態変化の見られた際に報告して情報の共有に努めています。職員の異動については家族通信や面会時に報告しています。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情等の受付に関して、契約の際にホーム内担当者の他、第三者委員などでも受け付けている事の説明をしています。またホーム内に意見箱を設置しています。面会時や家族会・介護計画書説明の際に職員に何でも話して頂ける雰囲気作りや家族との懇談を大切に、意見・苦情・不満を引き出す努力をしています。家族会では職員が外れ家族のみでの話し合いの場を設けています。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>介護主任や介護リーダーが職員とのミーティングや個人面談で出された意見や提案を管理者に報告。管理者は、報告された内容の他に職員玄関に設置されている目安箱の中身や上申書の内容をまとめて運営者に報告・相談することで運営に反映する仕組みとなっています。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者本位の生活を実現するために利用者の状況や受診・行事等を踏まえて勤務体制の変更の話し合いや職員の増員を実施しています。</p>	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>産休・育休で職員が長期で休む際、結婚退職等で離職する際、異動の際はサービスの質の低下を招かないように何ヶ月も前より計画的に職員を補充し育成することで利用者のダメージを少なくするようにしています。また離職後の利用者の精神状態や不安等の観察を行い、必要に応じて話を聞いたりして対応しています。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は、管理者や職員に必要な外部研修を積極的に参加するように努めています。また外部研修の内容は、研修報告書にまとめて提出する形になっており全職員が周知出来るようになっていきます。また内部研修の月1回の開催、専門的文献を定期購読をし、働きながら学ぶ機会を確保しています。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者や職員は、認知症グループホーム連絡協議会を通じて、研修会に参加したり、情報交換を実施することでサービスの質の向上や悩みの共有及び解決に役立てています。また会議や研修会実施のために法人内会議室を提供しています。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>法人内に親睦会を設け、花見会や暑気払い・旅行・忘年会等職員の希望に応じた催しを企画し、職員の交流やストレス軽減に努めています。また病気になった際に安心して病院受診ができるように福利厚生が充実しております。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は、法人内人事考課制度において職員の課業達成度・資格取得等目標達成度を把握し、資格手当て・昇進・昇格・賞与等に反映させることで、各職員が向上心を持って働けるように努めています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者と職員が、生活を共にし支え合うという関係を築けるよう、日々努めています。利用者一人一人が希望する「生活の場」とはどのようなものかを考えながらケアにあたっています。又、一緒に様々な作業や活動を行い、共に喜び楽しみを味わっています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の日常的な面会時や行事参加時などに、職員は利用者の生活の様子を伝達し、悩みや喜びを共有しながら利用者を支える関係を築いています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と利用者が一緒に過ごす時間がより多くもてるよう、年間行事を企画し家族参加の機会を設けています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力のもと、利用者の自宅やご近所、親戚宅などに訪問しています。協力の難しい場合には、ドライブなどで地元への外出の支援をしています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	洗濯衣類たたみや野菜の下ごしらえをしている利用者に「私もやるわよ。」と声をかけ一緒に行ったり、食が進まない利用者に「美味しいから食べてみて。」と優しく声をかけたりと自然と良い関わり合いができています。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	やむを得ず他のグループホームや併設特養に入居した方に関しては、面会したりホームに招いたり関係継続出来るように支援しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>意思表示のできる利用者には生活に対する希望・意向等に関してその都度対応しています。希望等があっても遠慮している様子が見られた時には、さりげなく声をかけ支えるように支援しています。表出の困難な方には言葉や表情などから希望の把握に努めています。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前の事前調査だけでなく入居後も継続的にセンター方式アセスメントを利用し、利用者・家族から生活歴や暮らし方、サービス利用までの経緯等の把握に努め、利用者本位の生活が送れるように努めています。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>利用者一人ひとりの1日の過ごし方、食事・排泄・健康状態等を総合的に観察した上で記入できる記録用紙になっており、休みだった職員も確認の上に押印する仕組みになっています。又、記録やカンファレンスを通して、利用者一人一人のニーズは何かを日々考えながら支援しています。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人の希望やご家族の意見を取り入れ作成しています。又、各担当者が中心となり職員全体で意見交換をし、介護計画に反映しようと努めています。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画を期間に応じて見直しを行なう事はもとより、利用者の状況・変化・希望に応じて、利用者・家族・職員と話し合い、現状に即した新たな介護計画書作成に努めています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活状況や健康状態、実践したケアなどを個別の記録シートに記録し、職員が情報の共有化をしています。また、その中から気づき等に関してのカンファレンスを行い介護計画に取り入れていくようにしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	隣接する特養ホームとの合同行事、踊りや歌のボランティアに参加、体験学習の学生達との交流、市が開催するお好み演芸や地域での園芸祭へ出かけ地域と関わり生活の拡充に努めています。消防署には防災訓練、警察署には近隣のパトロールをお願いし、利用者が安全に生活出来るように支援して頂いております。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	市町村独自に行っている介護用品給付券や重度医療費助成交付申請、身体障害者手帳申請等について家族に活用を勧めたり、申請にあたっての支援を行なっています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加し、馴染みの関係が出来つつあります。、周辺情報や支援に関する情報交換を行っています。地域包括支援センター職員が担当者のみではなく、勤務状況により代替者が参加してくださり、多くの方に認知症ケアの報告をしています。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居契約時、馴染みのかかりつけ医を継続して頂いて構わない旨を説明していますが、利用者・家族の希望にて協力医療機関に変更されています。また状態に応じて心療内科・眼科・皮膚科等の専門医の受診援助も行っています。受診の際は、受診結果を家族に伝え情報の共有に努めています。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>認知症の医療に精通している心療内科に受診し、気軽に相談できる関係性になっており適切な治療方針・指示・助言を頂いている。利用者に急な変化が見られた場合でも電話にて適切な指示を仰ぐことができおり、信頼関係を築きながら支援を行なっている。</p>		
45				
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>利用者が入院した際は、入院による弊害を出来るだけ防ぐため、利用者が安心して認知症の症状に合わせた対応、早期退院について病院関係者と話し合っています。また職員も頻繁に面会に行くことで本人の状態観察・確認を行なっている。家族とも連絡をとり、短期的にかつスムーズに回復・退院に向けての連携支援を行なっている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>「看取りの指針」が出来ており家族に説明すると共に職員も周知しています。重度化や終末期について、家族、医師、看護師、管理者が本人の状態に変化ある度に話し合いを持ち、家族、本人の思いを確認し共有する場を持っている。重度化した場合を想定した勉強会を看護師により行なっている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>事例はないが重度化や終末期の利用者・家族を支える為に、事業所として対応出来ること、不安なこと等を職員間で話し合い、介護法に関しては看護師による勉強会を開催しています。急変した場合は、すぐに対応して頂けるように協力医療機関との連携体制は出来ています。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>利用者が他施設に移る際、これまでの生活の暮らしの継続性が損なわれないように、家族了承のもと個人情報や支援内容・注意点等について移行先に伝達すると共に職員が訪問するなど、ホームとして出来る限りの支援を行なっている。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>				
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報保護法について全職員が周知し、誓約書を記入しています。ホーム内作品掲示・広報誌への写真掲載・面会や電話の制限等に関しても、利用者・家族の同意・不同意を得てから実行しております。また日頃の利用者への対応・声掛けに関しては、接遇委員会を中心に話し合いを持っています。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>意思表示が出来ない方でも日常生活を共に過ごしている中で表情やしぐさから読み取ることなどし、利用者の思いや関心・希望等を把握するように努め、食事・入浴・外出等様々な事柄に関して選択する場面を意図的に作っています。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者のその日その時の思いを尊重し、利用者のペースに合わせ柔軟な対応に努めています。利用者の希望の実現が可能になるように支援しています。</p>		<p>時として、職員の業務を優先してしまうことがあります。利用者一人ひとりの一日の流れに留意し、その場その時何をすべきかを考え行動していかなければならない。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>身体機能により自分でダンスや押入れから洋服が選べない方にも、複数の洋服を用意し自己決定を尊重しています。行事や外出の際にはお化粧品やおしゃれを勧め、本人の美意識を継続性を大切にしています。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者自身が買い物で選んだものや畑で収穫した野菜などを、職員と一緒に下ごしらえしたり調理し揃って食事を頂く、という一連の流れを自然体で行っています。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>職員は、利用者の嗜好品を把握し一緒に買い物に出掛ける機会を作ったり、お酒については利用者の希望・状態に応じて提供しています。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>利用者の排泄リズム・排泄サインを排泄チェック表やセンサー方式を使用し把握に努めています。本人の生活リズムの中でさりげなくトイレの声かけ・誘導を実施し失敗時に本人を傷つけないような配慮も十分に行っています。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>利用者が入浴したい日、時間帯に合わせて入浴支援を行なっています。仲の良い方同士の入浴や、菖蒲湯・ゆず湯など入浴を楽しんでいただけるよう支援しています。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>日々の利用者の活動状況・体調等に合わせて休息する時間を設けるように努めています。日中の活動で生活リズムを作り、夜間の安眠に繋げるように努めています。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>利用者の生活歴や利用者・家族からの情報を元に家事や裁縫・馴染みの慣わし等で活躍する場面を作ったり、外食やドライブ・地域行事に参加する機会を作ったりと利用者一人ひとりが充実した1日が送れるように支援しています。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している(認知症対応型共同生活介護)	家族よりお金を預かり事務所が管理しているのが主です。利用者からの生活用品等の購入希望時や移動販売(パン)の買い物の際には、本人の預かっているお金から購入することを理解して頂いています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	利用者の希望や天候に応じて、季節感の感じれる場所へドライブに出掛けたり、近隣のスーパーに買い物または外食に出掛ける機会を作っています。歩行困難者には、車椅子にて散歩に出掛けたりと気分転換や五感刺激の機会を作るように努めています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	一年を通して、様々なイベントに参加できるよう事前に調べ予定を企てています。秋祭りや音楽コンサートなど、利用者が希望するイベントに職員と一緒に同行し喜び、感動を共有することも多いです。温泉に行く機会も作り、職員と一緒に浸かり普段とは違う楽しみも味わっていただくようにしています。		これまで以上にご家族の協力を得、利用者の喜んでいただける場所等を確認し外出支援を行なっていきたいです。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	ホーム側からの用事で家族に連絡する際は、利用者が電話で話せるよう支援しています。その際、職員は会話の難しい利用者の仲介に入りスムーズにやりとりができるような配慮をしています。家族から手紙が届き、読むことが難しい利用者には職員が代読しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している(認知症対応型共同生活介護)	家族・知人・友人等が面会に来られた際には、気兼ねなく会話が出来、ゆったりとした時間を過ごすことができるよう配慮しています。食事を利用者と共にして頂いたり、時には出前の希望にも対応しています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや申し送りで職員に周知を図り、共通認識を持っているかを確認し、身体拘束のないケアに取り組んでいます。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は利用者一人ひとりの状態や傾向を周知しており、その日その時の本人の思いを察知し職員間の連携のもと見守りを行いながら、場合によっては一緒に行動するなどし安全で自由な暮らしを支援しています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、利用者と同じ空間で作業を行っており、さりげなく状態を観察するようにしています。夜間に関しては、物音が聞こえ易く起きてきた時にすぐ対応出来る場所にて過ごし、1時間おきの巡視をして安全に配慮しています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態に応じて、注意が必要な物品は何か職員で話し合い管理方法を検討しています。出来る限り見守りすることで生活に必要な物品や道具が使用でき、生活意欲が持てる様に支援しています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故発生時、併設特養職員にも利用者の特徴が分かるよう写真等を配布しています。その他利用者に関与する転倒・窒息等のリスクを想定し事故防止の方法を学び共有しています。万が一事故が起きた場合、事故・ヒヤリハットの報告書を速やかに作成し、事故の要因・対策について話し合い、家族への説明と報告をし今後の予防策に繋がっています。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	グループホーム協議会の研修や消防署協力での心肺蘇生法、AEDの使用法の勉強会に参加、体験・習得するように努めています。急変時対応について、マニュアルを整備し周知徹底を図っていますが経験が少なく不安に思う職員も多いのが現状です。		急変時や事故の際、冷静に適切な応急処置が出来るように訓練を繰り返し、実践の場面に活かせる技術を身に付けていくようにしていきたいと想います。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災に関しては防災委員会を中心に月1回通報・消火・避難等について防災訓練を行っています。その他日常的に非常放送機器や消火器の使い方、避難経路についてシュミレーションを行っています。地域の方に災害の際の協力依頼を行っています。		地域住民参加による訓練は行われていないため、まずは地域推進運営会議参加者に訓練参加を促している段階なので今後具体的な支援体制の整備や訓練に努めていきたいと思っています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>起こり得る危険を考えたうえで、職員間でカンファレンスを行い対応策を話し合っています。又、それを家族に説明し理解していただいた上で対応しています。</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>職員は利用者一人ひとりの状態を、日々のケアにおいて観察し把握しています。バイタルチェックや排泄チェック、食事量などにおいて少しでも変化が見られた際は、速やかに管理者・看護師に報告・相談し対応に結び付けています。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>職員は、利用者一人ひとりの薬について、医師や看護師の説明・処方箋・薬辞典等を活用し理解しています。受診の際は、食欲・睡眠・バイタルサイン・精神面等総合的な報告・相談を行い服薬の支援に活かしています。服薬時は一人ひとりに手渡し、毎回全員の服用を確認しています。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>職員は利用者の排泄チェックを怠らず、予防と対策の足がかりとしています。一人ひとりの習慣や原因を考慮し、自然排便が可能になるように日々の適度な運動や食物繊維の多い食物や乳製品などを食事に取り入れるようにしています。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>口腔ケアの重要性については、勉強会を実施し職員は周知しています。毎食後、歯磨きの声かけ誘導を行い、見守りや介助の支援も利用者一人ひとりの持てる力に応じて行なっています。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事や水分量の摂取量をチェック表にて行なっています。摂取量の減少が見られる際には、本人の好むものなどを提供するなどの工夫をしています。又、看護師や併設特養の栄養士などに相談し入居者の栄養管理に努めています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルについて全職員が周知し対応法についても看護師の指導を受けています。職員・利用者の手洗い・うがいを励行し、面会者にも促しています。また玄関には次亜塩素酸ナトリウム液を浸した敷き物を置き、必ず踏んでから入室をお願いしております。また利用者・職員とも毎年インフルエンザ予防接種を実施しています。地域の感染症の発生状況の情報を収集し、速やかな対策を講じています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	環境整備美化委員会を中心に清掃担当を設け、念入りな清掃を行っています。その他日常的に使用前後の清掃・消毒・手洗い等衛生管理に努めると共に食材に関しては、新鮮な物を必要最低限購入し速やかに使用したり、冷凍庫・冷蔵庫の在庫確認をこまめに実施しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物自体は、ハードなイメージがあり親しみ易いとはいえませんが、玄関周りに四季折々の花々を沢山置いたり、ベンチを置き休息できる空間を作ったりと工夫しています。玄関前は道路になっている為、職員や地域住民には徐行運転をお願いし安全に配慮しています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な環境を大切にした上で、イベントや日常生活の写真を掲示したり、利用者と共に行った季節の花を生け花として飾ったりと、季節に応じた装飾に努め季節や時の変わりを感じる事の出来る工夫をしています。自室とホールの往来に障害物などがないような空間作りに努めています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の随所にソファや椅子を設置し、近くには装飾を施したり写真を掲示し寛げる空間作りに努めています。気の合った利用者同士で写真を眺めて談話したり、一人で雑誌を読んだりする姿が見られます。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内のタンスやテレビなど、利用者一人ひとりに合った安全で生活しやすい場所に配置しています。自宅にあったなじみの物や趣味のものなど、本人が自室に愛着と自己主張を持ち居心地良く過ごすことが出来るように工夫をこらしています。又、家族と一緒に撮った写真を飾り穏やかに安心して頂けるような配慮もしています。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>空気の入れ替えや温度調節には全職員が常に注意を払っています。トイレや排泄介助後の居室の臭いの除去には換気扇・消臭剤などを使用し利用者が不快のない空間を作るよう努めています。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>共有空間や浴室・トイレの至るところに手すりを設置、居室には手すりがない為利用者の状態に合わせた家具等の配置を行い安全に生活出来るように配慮しています。また浴槽に入りやすいように踏み台を設置したり、回転盤を活用。台所での家事が困難な際は、利用者の作業しやすい環境であるホールに場所を移動して提供したりと利用者の身体機能に合わせた対応をしています。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>利用者の不安や混乱、失敗を招く要因について職員で話し合いを行い、利用者の状態に合わせた環境整備を心掛けています。居室やトイレや浴室についても分かり易い表示となるよう字の大きさや漢字やカナ表示にするか、表示する目印の材質や色等についても検討して対応しています。</p>		
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>玄関や中庭には、四季折々の花や野菜を植えており園芸や水くれをしたり、コミュニケーションの手段として利用しています。常日頃日光浴や散歩を楽しんだり、中庭では花見会や芋煮会を行い、家族と共に楽しむ場所として活用しています。</p>		<p>併設施設の工事終了時、中庭への出入りがスムーズにできるようにスロープが出来る予定となっています。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	その他()
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	その他()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない	その他()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	その他()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	その他()
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない	その他()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

特別養護老人ホームエルピスが隣にある事で、災害や急変時の際に速やかな連帯体制が出来ているだけでなく、合同イベントやレクリエーションに参加する等利用者の生活の楽しみが拡充されています。また、ケアに対する悩みも特別養護老人ホームの介護員や看護師・栄養士等話合う機会がある事で広い視点から物事を考えることが出来ていると思います。また、グループホーム職員の間関係は、とても良好で笑顔が絶えない職場環境となっています。

利用者に接する際はうわべだけではなく、「今」を大切にしていけるよう心がけ、毎日のケアを行なっています。

職員一人ひとりが資格取得等の目標設定を行い実現に向けて努力しており、それが利用者のケアの質向上に繋がっております。

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

.サービスの成果に関する項目

【記入方法】

複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに管理者が介護職員と協議の上記入してください。

次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。

項目番号23 初期に築く本人との信頼関係

項目番号24 初期に築く家族との信頼関係

項目番号25 初期対応の見極めと支援

項目番号26 馴染みながらのサービス利用

項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援

次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。

項目番号53 身だしなみやおしゃれの支援

項目番号59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援

項目番号60 お金の所持や使うことの支援

項目番号61 日常的な外出支援

項目番号62 普段行けない場所への外出支援

項目番号63 電話や手紙の支援

項目番号64 家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

管理者 = 指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。

職員 = 「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 エルピスホーム

(ユニット名) B(空)

記入者(管理者)
氏名 吉川 君江

評価完了日 平成20年11月4日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>社会福祉法人篤心会としての基本理念である家庭・地域社会との連携を大切に暖かい家庭的環境を作ることを職員全員で確認しています。現在のホームの状態から地域との関係性、連携をどのように図っていくべきか話し合い、地域住民の一員として地域の人たちに理解を頂きながら健康的な暮らしができるように努めています。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎日朝礼の際、各ユニットにて職員全員で理念の実現のために唱和しています。理念を念頭においての統一したケアについて取り組みを図り、日々実践に活かしています。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族の方には家族通信や面会時に利用者が地域行事に参加する機会を設け、生き生きとした暮らしを継続する為の理解と協力を得ている。地域の方には運営推進会議・見学の際に理念について説明しています。その他、理念を見え易い玄関に掲示したり、パンフレットに載せたりと多くの方に理念が浸透するように努めています。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>夏祭り等の行事を開催する際は、近所の方に招待状を出し、参加の呼びかけを行い参加をして頂いております。散歩の際は近隣の方への挨拶を実施し、気軽に話ができるように日頃よりしています。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>須賀川広報や地元新聞で地域行事を調べては、祭典に参加したり、文化センターの催し物にも出かけています。買い物にはスーパーや商店街に、ファミリーレストランや食堂などには外食に出掛けることで地域の方と交流する機会を確保しホームの理解が得られるようになってきました。パンの移動販売などもあり気軽な交流も出ています。しかし、町内会に加入しているものの町内会長や役員との交流には至っていない。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>認知症グループホーム連絡協議会の研修委員を引き受け、会議の場所を提供し、県内のグループホームの質向上だけでなく、地域の高齢者等の暮らしに役立つ術はないか話し合っています。民生委員や他事業所の職員の見学を受け入れ、認知症ケアの啓発に努めています。</p>	<p>認知症サポーターの養成等に少しでも事業所として役立つことは無いか、具体的活動に結び付けていきたいと思います。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価及び外部評価を実施する意義を理解した上で、サービスの点検のために全職員で自己評価票記入に取り組みました。評価結果に基づいて職員で話し合い改善計画シートを作成し質向上のために取り組んでいます。自己評価の内容を組織内人事考課制度に取り入れ日々のケアの中で職員が意識できるようにしています。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等についての報告や情報交換を行なっています。入居者の方が参加する事により、意見を自ら述べホームでの生活の様子を知って頂き、参加委員の方に取り組みに関して激励されることで自信欲を持ってサービスの向上に向けて取り組んでいます。会議の参加者として入居者に参加はして頂きましたが、町内会、老人会、婦人会等参加には至っていない。</p>	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者が定期的な市の会議に参加し、情報の収集や知識の習得に努め、また相談をし積極的に交流を図っている。</p>	<p>事業所の問題解決を図っていく為に、積極的に働きかけ関係作りに努めていきたいと思っています。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域権利擁護事業や成年後見制度について外部研修や内部研修にて学ぶ機会があります。その他、文献を用意しいつでも見れる状態になっています。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修やミーティングにて、高齢者虐待防止法を全職員が理解し、浸透、遵守がされるように話し合い実行しています。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に関しては、電話相談・ホーム内見学・実態調査・重要事項説明書説明の際に、不安や疑問等を尋ね十分な話し合いをした上で納得して頂いてから契約を結んでいます。利用者の状態変化による止む終えない契約解除に至る際も、家族と相談し納得した上で行なっている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の言葉や態度や表情からその思いを汲み取り、解決する努力をしている。管理者や職員が意見や不満・苦情を聞く機会を作っている。利用者と信頼関係ができた職員には意見を言いやすい関係ができています。</p>	<p>入居者の方に運営推進会議に参加して頂いた際、途中で事業者職員が席をはずす等配慮し、第三者に意見を聞いて頂く機会を作る等工夫していきたくと思います。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の暮らしぶりについては、2ヶ月に1回の家族通信の発行やホーム内写真掲示、面会の際や電話連絡により報告しています。預かり金に関しては、出納帳や領収書を利用料請求書と共に一緒に送付したり、電話連絡により報告しています。健康状態に関しては、病院受診や状態変化の見られた際に報告して情報の共有に努めています。職員の異動については家族通信や面会時に報告しています。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情等の受付に関して、契約の際にホーム内担当者の他、第三者委員などでも受け付けている事の説明をしています。またホーム内に意見箱を設置しています。面会時や家族会・介護計画書説明の際に職員に何でも話して頂ける雰囲気作りや家族との懇談を大切に、意見・苦情・不満を引き出す努力をしています。家族会では職員が外れ家族のみでの話し合いの場を設けています。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>介護主任や介護リーダーが職員とのミーティングや個人面談で出された意見や提案を管理者に報告。管理者は、報告された内容の他に職員玄関に設置されている目安箱の中身や上申書の内容をまとめて運営者に報告・相談をすることで運営に反映する仕組みとなっています。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者本位の生活を実現するために利用者の状況や受診・行事等を踏まえて勤務体制の変更の話し合いや職員の増員を実施しています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	産休・育休で職員が長期で休む際、結婚退職等で離職する際、異動の際はサービスの質の低下を招かないように何ヶ月も前より計画的に職員を補充し育成することで利用者のダメージを少なくするようにしています。また離職後の利用者の精神状態や不安等の観察を行い、必要に応じて話を聞いたりして対応しています。	
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	運営者は、管理者や職員に必要な外部研修を積極的に参加するように努めています。また外部研修の内容は、研修報告書にまとめて提出する形になっており全職員が周知出来るようになっていきます。また内部研修の月1回の開催、専門的文献を定期購読をし、働きながら学ぶ機会を確保しています。	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	管理者や職員は、認知症グループホーム連絡協議会を通じて、研修会に参加したり、情報交換を実施することでサービスの質の向上や悩みの共有及び解決に役立てています。また会議や研修会実施のために法人内会議室を提供しています。	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	法人内に親睦会を設け、花見会や暑気払い・旅行・忘年会等職員の希望に応じた催しを企画し、職員の交流やストレス軽減に努めています。また病気になった際に安心して病院受診ができるように福利厚生が充実しております。	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	運営者は、法人内人事考課制度において職員の課業達成度・資格取得等目標達成度を把握し、資格手当て・昇進・昇格・賞与等に反映させることで、各職員が向上心を持って働けるように努めています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者と職員は一緒に生活をし、「今」を生きていく共に支え合うという関係に気を配りながら作っています。お互いを気づかいながら出来る部分は教えていただき、職員ができる部分は自然体で支え、様々な場面や過去のエピソードを設定しながら穏やかに生きて甲斐ある生活ができるようにしています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族面会時や行事参加時に利用者の状態や職員の思いや気づきをこまめに情報伝達することで、家族との信頼関係ができ話し合いの中で職員と家族が思いを共有し涙を流す場面がみられるようになりました。そして本人と一緒に支えているという関係を築いています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族参加の行事（花見会・温泉旅行・夏祭り・芋煮会等）を企画し、一緒に行事を作り上げたり、日常のドライブや牡丹園見学と一緒に参加したり、居室整理を本人と共に行なう機会を提供して、事業者・家族一体になって利用者を支える関係作りに努めています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの場所や馴染みの人を把握した上でいつでも来訪していただける雰囲気作りに努め、スムーズにコミュニケーションがとれるように仲介的役割を行い言葉の伝達を行っています。また、家族の協力のもと友人や親戚等に会うことが継続して行えるように支援している。		遠隔地の家族や馴染みの方へ絵葉書を出したり、本人との関係が途切れないように行なっていきたいと思います。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士で下肢が不自由な方が椅子に座ろうとした際に椅子を引いてあげたり、言葉の表出が難しい方にはゆっくり話してあげるなど共に支え合い、助け合う心が育み、お互いの良さを認め合う温かい雰囲気ができている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	やむを得ず併設特養に入居した方に関しては、面会したりホームに招いたり関係継続出来るように支援しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>自分の意思を表出できる方には、暮らし方の希望や意向に関して尋ねて把握するようにしています。意思表出困難な方に関しては、日常生活の中で見せる表情・言動・行動・生活歴・家族からの情報により、本人本位に思いや意向を把握するように努めています。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前の事前調査だけでなく入居後も継続的にセンター方式アセスメントを利用し、普段から利用者から、家族面会時に生活歴や暮らし方、サービス利用までの経緯等の把握に努め、現在の利用者の生活に生かせるように努めています。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>利用者の生活状況、食事・排泄・健康状態等を観察した上で記入できる記録用紙になっており、総合的に把握できるよう努めています。特記事項には、細かな情報を共有できるよう記載しています。利用者の出来る力・分かる力に関してもアセスメントやカンファレンスにて明らかにし介護計画書に反映しています。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画書作成の際、利用者本位の生活実現のために利用者・家族の意向を日頃の関わりの中で思いや意見を伺い(または思いを汲み取る)、職員全員でカンファレンスを行い介護員だけでなく看護師・併設特養管理栄養士と話し合い、それぞれの意見を反映した介護計画書を作成するように努めています。</p>	<p>職員に担当者制を設けてはいるが、担当職員が介護計画のモニタリングまでにはまだ至ってはいない。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画を期間に応じて見直しを行なう事はもとより、介護計画の遂行状況、効果評価とともに、職員が記録する日々の状況を参考にし、利用者の状況・変化・希望に応じて、利用者・家族・職員と話し合い、現状に応じた見直しを行なっています。</p>	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録に対しケアの実践、食事、水分、排泄などの身体状況、利用者同士、家族、職員とのエピソード、本人の発した言葉などを詳しく記入しています。休みの職員は確認し押印する仕組みになっている。それをもとにカンファレンスを実施し、ケアの実践・介護計画書の作成に反映しています。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援 (小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)</p>	/	/	/
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>隣接する特養ホームとの合同行事、踊りや歌のボランティアに参加、体験学習の学生達との交流、市が開催するお好み演芸や地域での園芸祭へ出かけ地域と関わり生活の拡充に努めています。消防署には防災訓練、警察署には近隣のパトロールをお願いし、利用者が安全に生活出来るように支援して頂いております。</p>		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>市町村独自に行っている介護用品給付券や重度医療費助成交付申請、身体障害者手帳申請等について家族に活用を勧めたり、申請にあたっての支援を行なっています。</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加し、馴染みの関係が出来つつあります。、周辺情報や支援に関する情報交換を行っています。地域包括支援センター職員が担当者のみではなく、勤務状況により代替者が参加して下さり、多くの方に認知症ケアの報告をしています。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居契約時、馴染みのかかりつけ医を継続して頂いて構わない旨を説明していますが、利用者・家族の希望にて協力医療機関に変更されています。また状態に応じて心療内科・眼科・皮膚科等の専門医の受診援助も行っています。受診の際は、受診結果を家族に伝え情報の共有に努めています。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>認知症の医療に精通している心療内科に受診し、気軽に相談できる関係性になっており適切な治療方針・指示・助言を頂いている。利用者に急な変化が見られた場合でも電話にて適切な指示を仰ぐことができおり、信頼関係を築きながら支援を行なっている。</p>		
45				
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>利用者が入院した際は、入院による弊害を出来るだけ防ぐため、利用者が安心して認知症の症状に合わせた対応、早期退院について病院関係者と話し合っています。また職員も頻繁に面会に行くことで本人の状態観察・確認を行なっている。家族とも連絡をとり、短期的にかつスムーズに回復・退院に向けての連携支援を行なっている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>「看取りの指針」が出来ており家族に説明すると共に職員も周知しています。重度化や終末期について、家族、医師、看護師、管理者が本人の状態に変化ある度に話し合いを持ち、家族、本人の思いを確認し共有する場を持っている。重度化した場合を想定した勉強会を看護師により行なっている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>事例はないが重度化や終末期の利用者・家族を支える為に、事業所として対応出来ること、不安なこと等を職員間で話し合い、介護法に関しては看護師による勉強会を開催しています。急変した場合は、すぐに対応して頂けるように協力医療機関との連携体制は出来ています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>利用者が他施設に移る際、これまでの生活の暮らしの継続性が損なわれないように、家族了承のもと個人情報や支援内容・注意点等について移行先に伝達すると共に職員が訪問するなど、ホームとして出来る限りの支援を行なっている。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報保護法について全職員が周知し誓約書を記入しています。個人情報の取り扱い面会や電話の制限等に関しても、利用者・家族の同意・不同意を得ています。また職員のあるべき姿・対応に関しては管理者や介護リーダーが日常的に確認すると共に接遇委員会を中心に話し合いを持っています。排泄や更衣が完全に行えない利用者についてはその都度他入居者様の目に触れないように配慮しています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者が意思表示出来ない方でも日々の関わりにおいて表情やしぐさから本人の希望や思いを把握するように努め、食事・入浴・外出等様々な事柄に関して選択する場面を設定し、納得いく暮らしができるように支援しています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者のその日その時の思いを尊重し、利用者のペースに合わせて柔軟な対応に努めています。他入居者との交流を好まない方が、夜間皆が寝た後に職員を呼んだ際は、心ゆくまでおしゃべりを楽しむ時間を作っています。日中では職員と一体一で話す時間は持ちにくいですが夜間ではゆっくり話す時間を持つようにしている。</p>	
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>身体機能により自分でダンスや押入れから洋服が選べない方にも、ハンガーに複数の洋服をかけ、視覚での自己決定が出来るようにしています。また定期的ホームに来てくれる美容師とは馴染みの関係となりつつあり、会話が弾んだり希望の髪型にしてくれ利用者の方に信頼を得ています。一人ひとりに合わせたお洒落を楽しんでいます。</p>	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニュー作りには声をかけ参加して頂く様にしている。野菜の下準備、調理、盛り付けを楽しみながら行なっています。調理に参加できない方にもその場でいる事で調理の楽しさ、共同作業への共感を感じるようにしている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は、利用者の嗜好品を把握し一緒に買い物に出掛ける機会を作ったり、お酒については利用者の希望・状態に応じて提供しています。りんごがとて好物にされている方がおり、買い物に行き、戻ってからは自分で林檎を剥いては他利用者にご馳走する事をとても楽しみにしています。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	体調を崩し一度オムツ使用となったが、排便はトイレでの訴えが強く職員二人で立位介助を行い、現在日中は布パンツ、排泄はトイレで行なえるようになった方もいます。個々の排泄チェック表により本人の生活リズムの中でさりげなくトイレへ声かけ、誘導を行なっています。		長期入院でオムツ使用、バルーンカテーテル挿入となり、退院後もほぼ寝たきりであったが、朝の排泄(トイレ)習慣からトイレの訴えが始め、今は食事の都度離床しトイレ便座に座ることを習慣としている。トイレでの排便は時々しかないが、今後も気持ちよくトイレで排便ができるよう取組んでいきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの、その日その時のタイミングに合わせて確認と配慮し入浴ができるようにしています。浴槽内では装飾にも工夫し入浴が楽しめるよう支援しています。足浴の実施により安眠効果などの支援も行なっています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の活動状況・体調・習慣等に合わせて休息する時間を設けていますが、夜間不眠が続く方については、原因を見極めて1日を通しての生活リズム作りに努めます。それでも改善されない場合は、医療関係者に相談して対応します。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者の生活歴や利用者・家族からの情報を元に得意分野で一人ひとりの力が発揮できるように裁縫・調理・園芸・馴染みの慣わし等で活躍する場面を作ったり、外食やドライブ・地域行事に参加する機会を作ったりと利用者一人ひとりが充実した1日が送れるように支援しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している(認知症対応型共同生活介護)	家族よりお金を預かり事務所が管理している人でも、買い物の代金は自分で払って頂ける様にお金を手渡すなどの工夫をしています。近くの無人販売や自動販売機でもお金を入れるなど使えるよう機会を作っています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	利用者の希望や天候に応じて、季節感の感じれる場所へドライブに出掛けたり、近隣のスーパーに買い物または外食に出掛ける機会を作っています。歩行困難者には、車椅子にて散歩に出掛けたりと気分転換や五感刺激の機会を作るように努めています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	二本松の菊人形に行きたいという利用者の思いを叶えるために、家族・職員で話し合い勤務調整をし出かけることが出来ました。温泉についても入浴が難しい方も雰囲気を楽しんで頂きたいと多数参加できています。利用者が会いたい人・行きたい場所について家族と情報を共有し、家族の協力のもと支援しています。利用者が行きたいと思う場所に出来る限り出掛けられるように、勤務調整・車の手配等念密な計画を立て実行に移しています。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者に電話使用を促すと共に、ホーム側からの用事で家族に連絡する際は、利用者が電話で話せるように配慮しています。字がなかなか書けなくなった利用者も自分の名前を書くことは覚えていることが多いので、記入して頂いています。また希望に応じて手紙の代筆や代読を行っています。遠方の方や母の日などプレゼントを頂いた際は、ホームでの生活の様子の写真も添えて送っています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している(認知症対応型共同生活介護)	面会時間を設定しているが家族の都合等で時間内に来れない際は、柔軟な対応をしています。久しぶりに会い対応に迷っている際は、状況を説明し間を取り持つ役目をしています。また湯茶等物品を用意し食事を居室で一緒に食べて頂いたり、寛げる空間作りに努めています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや申し送りで職員に周知を図り、共通認識を持っているかを確認し、身体拘束のないケアに取り組んでいます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>利用者の精神状態・行動を把握する為に、必ず一人の職員は見守り出来るホールにて過ごすように努め、外出の気配を感じたら職員間で連携を図り、利用者の思いを尊重できるようにしています。またどんな場面でも速やかな対応・連絡ができるよう職員は携帯電話を常備し、鍵をかけないケアに取り組んでいます。</p>	
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>職員は、利用者と同じ空間で記録記入を行い、さりげなく状態を観察するようにしています。夜間に関しては、物音が聞こえ易く起きてきた時にすぐ対応出来る場所にて過ごし、1時間おきの巡視をして安全に配慮しています。</p>	
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>利用者の状態に応じて、注意が必要な物品は何か職員で話し合い管理方法を検討しています。出来る限り見守りすることで生活に必要な物品や道具が使用でき、生活意欲が持てる様に支援しています。</p>	
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>事故発生時、併設特養職員にも利用者の特徴が分かるよう写真等を配布しています。その他利用者に起こりえる転倒・窒息等のリスクを想定し事故防止の方法を学び共有しています。万が一事故が起きた場合、事故・ヒヤリハットの報告書を速やかに作成し、事故の要因・対策について話し合い、家族への説明と報告をし今後の予防策に繋げています。</p>	
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>グループホーム協議会の研修や消防署協力での心肺蘇生法、AEDの使用法の勉強会に参加、体験・習得するように努めています。急変時対応について、マニュアルを整備し周知徹底を図っていますが経験が少なく不安に思う職員も多いのが現状です。</p>	<p>急変時や事故の際、冷静に適切な応急処置が出来るように訓練を繰り返し、実践の場面に活かせる技術を身に付けていくようにしていきたいと思っています。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>火災に関しては防災委員会を中心に月1回通報・消火・避難等について防災訓練を行っています。その他日常的に非常放送機器や消火器の使い方、避難経路についてシュミレーションを行っています。地域の方に災害の際の協力依頼を行っています。</p>	<p>地域住民参加による訓練は行われていないため、まずは地域推進運営会議参加者に訓練参加を促している段階なので今後具体的な支援体制の整備や訓練に努めていきたいと思っています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>利用者の身体・精神機能の現状、今後起こり得るリスクについて、家族に説明した上で今後の対応について家族と共に考え、利用者を支える手段を選択するように務めています。</p>	<p>現在シルバーカーを使用している利用者が足が出ずに明らかに転倒の危険性がありますが家族、本人と相談し、歩きたいとの希望を大切に職員全員で本人が安全に暮らしていけるような支援を行なえるように随時対応策を話しています。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>利用者一人ひとりの状態を日々のケアにおいて観察し、顔色・食欲・様子等に少しでも変化が見られた際は、速やかに管理者・看護師に報告・相談し早期に対応をしています。食事量低下されている方については、食事・排泄量の確認、栄養補助食品の取り入れ・医療関係者の相談をこまめに行い、今後の対応につなげています。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>職員は、利用者一人ひとりの薬について、医師や看護師の説明・処方箋・薬辞典等を活用し理解しています。受診の際は、食欲・睡眠・バイタルサイン・精神面等総合的な報告・相談を行い服薬の支援に活かしています。服薬の際は、利用者へ手渡す前に間違いがないか名前の確認をし、本人にも確認を行い、利用者の服薬が出来るまで見守りを行っています。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>便秘の原因や及ぼす影響については、外部研修や内部研修に参加し理解しています。食事に乳製品や食物繊維の多い食材を小まめに取り入れたり、腹部マッサージを行ったりと出来る限りの対応をしています。センナ茶も提供していますが、運動や散歩が難しい方には自然排便が難しいのが現状です。</p>	<p>精神安定剤を服薬している方は副作用で便秘になり、それが一つの要因となり不穏となってしまう。好物の豆乳やアイスクリームを摂取して頂いていますが、自然排便は難しく下剤に頼ってしまうのが現状なので、何らかの便秘対策を今後も取組んでいきたい。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>口腔ケアの重要性については、勉強会を実施し職員は周知しています。利用者の歯磨きの習慣を尊重した上で、職員と一緒に歯磨きする場を設定し、歯磨きを誘発する働きかけを行ったり、磨き残しは仕上げしたり、口腔内清拭を行ったりと個々に合わせた対応をしています。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者の嗜好・食習慣を把握した上で献立を作成したり、利用者の状況に応じて提供内容・形状・介助法・食器等を変えています。血液検査の結果や体重・BMIの数値をもとに併設特養管理栄養士に指導してもらっています。とくに水分、食事が確保されていない方はデータを取りカンファレンスを実施しています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルについて全職員が周知し対応法についても看護師の指導を受けています。職員・利用者の手洗い・うがいを励行し、面会者にも促しています。また玄関には次亜塩素酸ナトリウム液を浸した敷き物を置き、必ず踏んでから入室をお願いしております。また利用者・職員とも毎年インフルエンザ予防接種を実施しています。地域の感染症の発生状況の情報を収集し、速やかな対策を講じています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	環境整備美化委員会を中心に清掃担当を設け、念入りな清掃を行っています。その他日常的に使用前後の清掃・消毒・手洗い等衛生管理に努めると共に食材に関しては、新鮮な物を必要最低限購入し速やかに使用したり、冷凍庫・冷蔵庫の在庫確認をこまめに実施しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物自体は、ハードなイメージがあり親しみ易いとはいえないが、玄関周りに四季折々の花々を沢山置いたり、親しみ易い表札をかけたたり、休憩する椅子を置いたり工夫しています。玄関前は道路になっている為、職員や地域住民には徐行運転をお願いし安全に配慮しています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な環境を大切にしながら、利用者に季節の花を生け花として飾って頂いたり、季節に応じた装飾に努めています。家具の配置に関しても、利用者の意見や状況に応じた配置に心掛けています。ホットプレートを利用し、利用者の目の前で料理したり、利用者が懐かしむ音楽を反応をみながら流したりと五感を刺激する工夫をしています。		構造上トイレが広く作られているため、広すぎて落ち着かないとの言葉が利用者から聞かれています。今後、居心地よく過ごせるように工夫していきたいと思います。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の随所にソファや椅子を設置し、近くには装飾を施したり雑誌を配置し、寛げる空間作りに努めています。ホーム内の写真を掲示しており、気の合った利用者同士で写真を眺めて談話したり、一人で物思いにふける光景がみられています。気の合う入居者同士居室の行き来があり、その際はゆっくり過ごせるようにお茶などを提供しています。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物の持参依頼は、入居前・入居後とも継続的に行っています。アルバムや華道・茶道道具、布団等馴染みのある物を持参して頂いたり、居室に家族の写真を飾ったりと安心できる空間作りに努めています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空調調整も活動性等利用者の状態に応じて行っています。あまり冷房・暖房を使用しすぎると季節を感じることなく生活している状態になる為、出来る限り自然環境に触れて頂き、利用者自ら衣類調整したり「暑い」「寒い」との言動を引き出すように努めています。またこまめな換気や換気扇・消臭剤の利用にて悪臭が出ないようにしています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有空間や浴室・トイレの至るところに手すりを設置、居室には手すりがない為利用者の状態に合わせた家具等の配置を行い安全に生活出来るように配慮しています。また浴槽に入りやすいように踏み台を設置したり、回転盤を活用。台所での家事が困難な際は、利用者の作業しやすい環境であるホールに場所を移動して提供したりと利用者の身体機能に合わせた対応をしています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の不安や混乱、失敗を招く要因について職員で話し合いを行い、利用者の状態に合わせた環境整備を心掛けています。居室やトイレや浴室についても分かり易い表示となるよう字の大きさや漢字やカナ表示にするか、表示する目印の材質や色等についても検討して対応しています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関や中庭には、四季折々の花や野菜を植えており園芸や水くれをしたり、コミュニケーションの手段として利用しています。常日頃日光浴や散歩を楽しんだり、中庭では花見会や芋煮会を行い、家族と共に楽しむ場所として活用しています。		併設施設の工事終了時、中庭への出入りがスムーズにできるようにスロープが出来る予定となっています。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	その他()
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<u>毎日ある</u> 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	その他()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない	その他()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	その他()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	その他()
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3 くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3 くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない	その他()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

特別養護老人ホームエルピスが隣にある事で、災害や急変時の際に速やかな連帯体制が出来ているだけでなく、合同イベントやレクリエーションに参加する等利用者の生活の楽しみが拡充されています。また、ケアに対する悩みも特別養護老人ホームの介護員や看護師・栄養士等話合う機会がある事で広い視点から物事を考えることが出来ていると思います。また、グループホーム職員の間関係は、とても良好で笑顔が絶えない職場環境となっています。

利用者に接する際はうべだけでなく、「今」を大切にしていけるよう心がけ、毎日のケアを行なっています。

職員一人ひとりが資格取得等の目標設定を行い実現に向けて努力しており、それが利用者のケアの質向上に繋がっております。